

第1学年音楽科学習指導案

平成20年9月24日(水) 第1校時
第1学年C級(男子20名, 女子20名)
指導者 満島 彩香

1 単元 情景と音楽

2 目標

- オーケストラの豊かな響きに興味を持つことができる。
- 作曲家や作曲された背景を学習することで曲に対するイメージを膨らませる。
- 演奏にどのような楽器が使われているかを聴き取ることができる。
- 自分なりに曲を解釈して聴くことができる。

3 指導観

- 本単元は、学習指導要領の第1学年の鑑賞の内容(1)ーア「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと」、エ「音楽をその背景となる文化・歴史などとかかわらせて聴くこと」をねらいとして設定したものである。

音楽にはそれぞれ、その曲自体に込められた想いや情景がある。その曲想を感じ取って聴いたり、そこに込められた想いを想像しながら表現したり鑑賞したりすることは、そのこと自体が音楽を楽しむということである。ここでねらいとする「音楽をその背景となる文化・歴史などとかかわらせて聴くこと」は、生徒自身がなぜこういうイメージや感情をもったのかという根拠を、楽器の組み合わせや曲の仕組みの中に探すという行為に繋がっていくということである。このことによって、その曲特有の味わいをつかむことができるようになり、曲にふさわしい表現がどういう表現であるかが分かってくる。また「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと」、は音楽の諸要素の働きを他の構成要素と関連させながら総合的に知覚することである。これは、音楽の感性的側面とかかわらせてイメージ豊かに理解する能力を伸ばし、聴き方を工夫する技能を得ることをねらいとしている。本教材は作曲家のスメタナが故郷への深い愛を音楽で表現した作品である。チェコ国内に流れているブルタバ川の表情の移り変わりをその場面に応じた楽器やメロディで表現してあるので、情景をイメージしながら聴くことができる楽曲である。

- 本学級の生徒は、ヴィヴァルディ作曲「春」、シューベルト作曲「魔王」、で音楽が表現する情景を想像しながら聴く学習はすでに行なっている。またヴィヴァルディ作曲の「春」では弦楽器の各楽器の音色や奏法の特徴をつかむ活動を通して、作曲家の意図を感じ取りながら鑑賞する学習をしている。しかし、まだオーケストラの楽曲を鑑賞する活動は行なっていない。また楽曲の背景となっている地域と作曲家について理解しながら聴くということはこれからの学習によるところが大きい。
- そこで本単元では、教材「ブルタバ」の授業を通して、生徒に自分なりの曲の解釈をしながら聴くことができるようにしたい。

まず、「ブルタバ」の各標題での音楽の情景に使われている楽器や演奏方法、オーケストラの迫力を学習することで、想像豊かに聴く能力を育てたい。また、作曲家の曲に対する想いや作曲された背景を学習することで、生徒によりイメージを膨らませながら「ブルタバ」を聴いてほしい。最後には「モルダウ」全曲を聴く活動を通して、自分なりに曲を解釈しながら聴くことの素晴らしさを生徒たちに伝えていきたい。

4 教材

- 「ブルタバ」(連作交響詩「我が祖国」より) (スメタナ作曲)

5 指導計画

情景と音楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

- ① ブルタバの各場面の情景をオーケストラがどのように表現しているのかを聴き取ろう。――1時間
- ② スメタナが曲に込めた想いを考えよう。――1時間(本時)

6 本時の学習指導

(1)目標

- スメタナが曲に込めた想いを考えよう。

(2)資料及び準備

ホワイトボード、掲示物、オーディオ、MD、ワークシート

(3)学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 前時の振り返りをする。 ○ 楽曲について ○ 標題の表わす情景について	○ 前時に生徒がワークシートに書いた感想を取り上げながら振り返る。	5分
2 オーケストラの楽器の確認をする。 ○ 各楽器群について ○ オーケストラの配置について	○ いくつかの標題の冒頭を聴かせて使われている楽器の音を確認する。	10分
3 本時の学習内容と目標を確認する。 スメタナが曲に込めた想いを考えよう。	○ 分かりやすいように、「ブルタバの主題」と「ブルタバは堂々と流れていく」の冒頭を聴かせ、生徒たちから“明るい”という言葉がでてくるようにする。	15分
4 「ブルタバ」の背景について学習する。 ○ 「ブルタバ」と「モルダウ」について ○ チェコの歴史について ○ スメタナの活躍について ○ スメタナの国に対する想いについて	○ スメタナの想いが曲に反映されているということを生徒に気付かせるように解説をする。	20分
5 「スメタナはどうして主題を明るくしたのだろう」について考える ○ 個人→グループ→全体	○ 全体の発表時に様々な意見が出るように、グループ活動に時間をとる。 ○ 進度の遅いグループには、考えるきっかけを提示する。	30分
6 「ブルタバ」を全曲鑑賞する。	○ 生徒が自分なりに曲を解釈しながら鑑賞できるように声かけをする。	42分
7 本時のまとめをする。		50分

7 板書計画

ブルタバ(モルダウ) 連作交響詩「我が祖国」から スメタナ作曲	
標題	オーケストラ配置図

スメタナ作曲

ブルタバ(モルダウ) 連作交響詩「我が祖国」から

1年C級[]番 []

◎オーケストラで使用する楽器について

弦楽器 []

木管楽器[]

金管楽器[]

打楽器 []

◎「聖ヨハネの急流」→「ブルタバは堂々と流れていく」→「ビシェフラト(高い城)」
を聴いて

◎スメタナが曲に込めた想いを考えよう。

◎ブルタバを聴いて感じたこと、授業の感想を書こう。

スメタナ作曲

ブルタバ(モルダウ) 連作交響詩「我が祖国」から

1年C級[]番 []

◎「ブルタバ」の背景について

- ・チェコで「ブルタバ」川のことを「モルダウ」川と言うと、チェコの人々から怒られるほど、チェコの人たちは自分たちの国に対して誇りを持っている。
- ・チェコはスメタナの生まれる前から、オーストリアの支配下におかれていた。
- ・政治的自由や宗教の自由、チェコ語を話すのでさえ禁止されていた。
- ・スメタナが生きた時代は民族独立運動がさかんに行われていた。
- ・スメタナは音楽の力で民族独立をかなえようとした。
- ・スメタナは「ブルタバ」作曲中に耳が完全に聴こえなくなってしまった。

◎スメタナは何を伝えようとしたのか

- ・「聖ヨハネの急流」はチェコのどんな状況をあらわしているか。
- ・「ブルタバは堂々と流れていく」に込められたスメタナの思いとは何か。
- ・この曲は誰のために作曲されたのか、その人たちに何を伝えたかったのか。
- ・スメタナはチェコにどうなってほしかったのか。